資料２

NPO法人
LGBTの
家族と友人をつなぐ会

家族の実情と願い

セクシュアルマイノリティの子どもを持つ家族より

カミングアウトの状況と親の反応

LGBTQ+当事者の声

データ引用：㈱電通「LGBTQ+調査 2020」

① 親へのカミングアウト：母親 12.9% / 父親 8.0%

② そのうち、スムーズに受け容れられない親＊：

母親 39.9% / 父親 46.2%

＊「初めは拒否反応があり受け入れるのに時間はかかったが、今は受け入れている」「未だに受け入れられてはいない」「完全に拒否されている」の合計

② LGBTQ+であるとカミングアウトをした際、親はどのような反応をしましたか （単一回答）

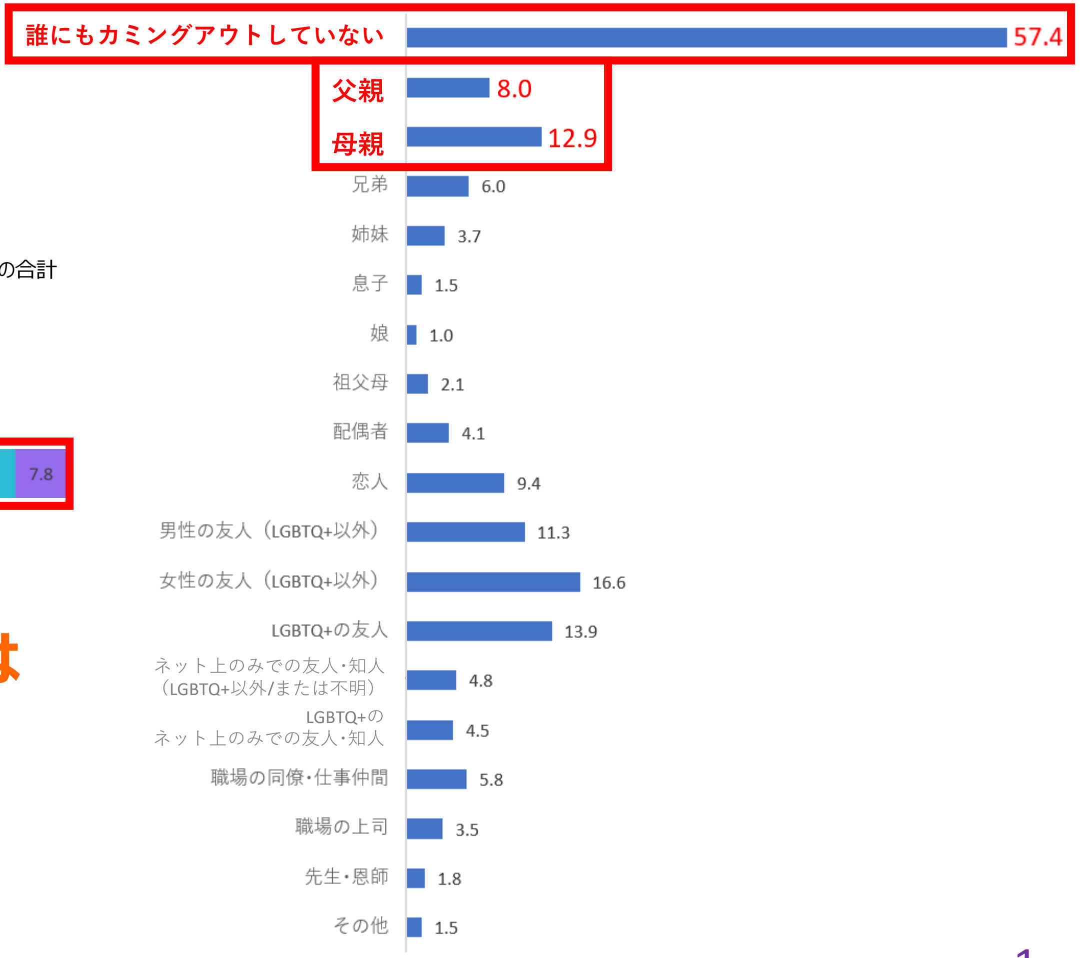
母親（n=母親にカミングアウトした93）　父親（n=父親にカミングアウトした66）

一番の味方でいて欲しい「親」に受け容れられないのは子どもにとって大きな問題！

親の受容度を高める必要性

① あなたはLGBTQ+当事者であることをカミングアウトされていますか

（複数回答）（n=LGBTQ+当事者555）



カミングアウトの状況と親の反応 ＜考察＞

➢ 子どもから親へのカミングアウトは高いハードル

・ 関係性が良くなかったり、親のLGBTQ+理解が低い場合、「受け容れてもらえるはずがない」と考えカミングアウトできない。

・ 子どもにとって親は最後の砦。学校や職場など、外で苦しい思いをしていても、親には味方でいて欲しい。カミングアウトして万一受け容れられなかったらと思うと、関係性が良い場合でもカミングアウトは大きなハードル。

・ 親を悲しませたくない、迷惑をかけてしまう、といった、子どもから親への気遣いも。

➢ 子どものカミングアウトを親がスムーズに受け容れるのは難しい

・ 知識がなく理解できない/男女二元論・異性愛が当たり前/生理的に受け付けられない
・ 差別・偏見への心配/結婚や就労への不安などにより、受け容れるべき、受け容れたいと考えていても難しい

子どもからのカミングアウトに対する保護者の受け止め ①

地域間格差

●都会

- 他人への干渉が少ない。
- マイノリティの居場所がある。
- 街づくりとして、多様性尊重への取り組みが進んでいる。
- 企業もDE&I推進を進めており、人々の意識も多様性重視に向かっているため **「差別、偏見はいけない」という自己規制が働く人が増えてきている。**

当事者は
生きづらさから都会へ

●地方

- 街の衰退もあり、若年層の都会への流出が顕著。
- 地元在住者の平均年齢が高く、地域コミュニティ、自治体、事業所など旧態依然としており、**多様性受容の浸透には課題がある。**

当事者も家族も
肩身が狭い

（参考）性的指向および性自認を理由とした困難事例

LGBT法連合会「性的指向および性自認を理由として私たちが社会で直面する困難のリスト」（第４版） より抜粋

【家庭での生活】

- 自認する性に従った行動を家族が許してくれず、「女っぽいぞ」と父から叩かれたり、「もっと男らしくしなさい」と母から怒鳴られるなど、虐待を受けた。
- 親から「一時の気の迷いだから精神科へ行け」「同性愛は治療できる」といわれ、病院に強制的に入院させられた。
- 好きな同性の子がいることが親にばれたため、「学校に行くな」と軟禁された上、勝手に転校を決められた。
- カミングアウトをしたところ、家族の中で自分の存在を無視されたり、死んだ者として扱われたりした。
- 家族の中で「異性愛以外は認めない」「不自然」「気持ち悪い」「うちの家族にはいない」などの差別的発言が繰り返されたため、メンタルヘルスを悪化させてしまった。
- テレビ番組に出演しているオネエタレントをみて、親が「生まれてくる子がゲイなら中絶する」「うちの家族にはいなくてよかった」と言われ、傷ついた。
- 親にカミングアウトしたところ、好きでもない相手と勝手に結婚話を進められ、結婚を強要された。
- 自分の性自認や性的指向について家族から理解が得られなかったため、家から追い出され、ホームレスとなった。

【その他（地域・コミュニティ）】

- 子どもが性自認や性的指向の困難を周囲に嘲笑され、本人だけでなく家族全体が居住している地域から孤立してしまった。
- 性自認や性的指向に関する差別的な地域に住んでいるため、居場所もなく、同じような困難を抱えている人ともつながることができず、友人や恋人を見つけることが難しくて孤立した。
- 地域活動において、性自認や性的指向について差別的な発言が繰り返され、性自認や性的指向を揶揄されたり、そのことを理由に地域活動から排除されたりした。
- 居住している地域で差別的な噂を流されたため、メンタルヘルスが著しく悪化した。
- 地方では、周囲に性的指向や性自認等についてカミングアウトしづらく、心から打ち解けられる友人ができず、住み慣れた土地を結局離れて都会に出ざるを得なかった。

子どもからのカミングアウトに対する保護者の受け止め ②

世代間格差

① シニア世代の保護者･･･子は成人

- LGBTQ+知識は皆無
- 男女二元論、異性愛があたりまえ
- 母親自身が自分を責める
- 子どもも保護者もクローズ

② 中高年世代の保護者･･･子は小学校高学年から中高生

- カミングアウトは受け止めるべきと認識
- 子どもからカミングアウトを受けるまでは他人事
- 自分の子どもとなると「頭では理解しているが感情がついていかない」

③ 若年世代の保護者･･･子は幼少児（小学校低学年まで）

- 子どもの性別違和的なしぐさ･主張に敏感に対応
- 入園前までは子どもの思うままの髪型、服装をあつらえて家族円満、明るく幸せに暮らす
- 子どもを社会に出した途端、子どもも保護者も社会の無理解の壁に阻まれる
- 保育園や小学校に配慮を求める行動を起こす

子どもからのカミングアウトに対する保護者の受け止め ③

世代間格差

④ 各世代の保護者：共通の課題

- 保護者の苦悩は、「**社会のセクシュアルマイノリティへの認識/理解不足**」に起因
- 保護者は**社会と子どもとの板挟み**になって葛藤
- 保護者も、保護者の影響を直に受ける子どもも、「社会のセクシュアルマイノリティへの認識/理解不足」のために**未来への希望を見い出せない**

家族としての困りごと　～家族相談の中で見えてきたこと～

葛藤を抱える家族の不安は、世間の目、特に結婚と就職

- パートナーシップ宣誓制度：全国の自治体に広がり、人口カバー率9割超
- 同性婚訴訟：東京・大阪・福岡・名古屋・札幌の各高裁で違憲判決
- 企業動向：多様な人材獲得を目指し、セクシュアルマイノリティへの門戸も徐々に開かれつつある

とはいえ

学校や職場、特に家族が多く勤める中小企業は旧態依然としており、人々の意識がLGBTQ+理解、受容に至っていないため、保護者は子どもたちが**学校や職場で差別されるのではないかと不安や恐れを感じる。**

➢ **子どもを守りたいがゆえの、子どものセクシュアリティ受容の障壁**

安心・安全な職場環境、管理職の意識改革が
保護者による子どものセクシュアリティ受容につながる

家族の望み　～子どもたちの未来に希望が持てるように～

子ども達への教育、安心･安全な環境整備

- 幼少期から人権意識に基づいた多様性教育を
- 誰にとっても安心安全な環境を**あらかじめ**整備

（生徒のカミングアウトにより慌てて対策を図る学校が多い）

全てのマイノリティに対する差別禁止の徹底

国として差別禁止を！！！

全てのマイノリティーに対してヘイトが渦巻いており、
特にトランスジェンダーがその標的になって苦しんでいます。

職場～社会の多様性理解/人権尊重の推進

多くの保護者が勤める職場において、多様性の理解促進と人権尊重を推進

➢ 社会全体の意識が変わり、保護者も世間の目を気にすることなく子どものセクシュアリティを受け容れ可能に

➢ 保護者が安定していれば、マイノリティの子どもの自尊感情も安定し、健やかに成長

家族の望み　～子どもたちの未来に希望が持てるように～

保護者に向けてのSOGI*教育　＊性的指向/性自認

- **幼少児の１歳半や３歳児検診の場で、SOGIの基礎知識を保護者全員が学べる機会を設ける**
  - ➢ 保護者自身がセクシュアリティに対して開かれた認識を持っていれば、自分の子どもの性別違和や性的指向に対して適切に対応可能
  - ➢ クラスメイトがマイノリティである場合にも、自分の子どもが差別や偏見を持たないよう教育することができる
  - ➢ 全ての保護者がLGBTQ+を自分事として受け止めることができるようになれば、子どもの世界でのセクシュアリティを起因とするいじめや孤立はなくなるのでは
- **割り当てられた性別と逆の性別をアピールする幼少児の保護者向けに、相談窓口や支援団体の提示**
  - ➢ 気軽に相談できれば保護者の不安はかなり和らぐ
- **子どもを抱える保護者が通う教育関連の場、図書館、保健所、病院などの目に付くところにLGBTQ+理解への啓発ポスターやパンフレットを掲示**
  - ➢ 人々が頻繁に目にすることで、保護者や地域社会の空気感が変わる

家族の願い

Be Yourself　～あなたらしく自分らしく～

私たちのほとんどは、普通見過ごされてしまう三つ葉のクローバーのような存在ですが
その中に時折四つ葉のクローバーのような人がいます。
四つ葉のクローバーは珍しく、私も子どもの頃何時間もかけて探したものです。
たまに見つけると、押し葉にして宝物として大切にとっておきました。

…私の子どもは四つ葉のクローバーのようです。

性的指向はたまたま私と違っていますが、私にとっては大切に守ってあげたい宝物です。
四つ葉のクローバーは不自然なものではありません。ただ、珍しくて大勢とは違っているだけです。
私はそれから葉を一枚もぎ取って三つ葉のクローバーに見せかけたいとは決して思いません。

PFLAGのニュースレターに掲載されていた、ある母保護者の手記より